PlayStation
梅沢由香里の
対局囲碁
平成棋院II

前作で好評だった最強・最速の思考力をさらに強化。
そして、初心者にうれしい入門編を継承し、
中、上級者も納得できる戦術戦略編、名局鑑賞編を新たに加えて
さらに充実した囲碁ソフト「平成棋院」の第二弾です。

はじめに
このたびはプレイステーション用ソフト「平成棋院Ⅱ」をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。ゲームを始める前に、この解説書をよくお読みいただき、正しい使用法で、末永くご愛用下さい。なお、この「解説書」は大切に保管して下さい。

For Japan Only　プレイヤー 1~2人　メモリーカード 3ブロック

SLPS 01767

[ケン陳博士]プロフィール

「平成棋院Ⅱ／実戦対局編」の思考ルーチンMGI 98の作者。1945年上海生まれ。米ノースカロライナ大学コンピュータ・サイエンス科教授。囲碁思考ルーチン・アルゴリズムの世界的権威として著名であり、「Group Identification in Computer Go」という論文は、世界中のゲームプログラミングの理論研究に大きな影響を与えている。「インターナショナル・コンピュータ碁コングレス」優勝をはじめ、数々の囲碁ソフト大会で優勝を獲得。

目 次

ケン陳博士プロフィール……………3
操作方法…………………………5
ゲームを始める前に………………6

基礎入門編

基礎入門編・メニュー………………9

戦術戦略編

梅沢由香里プロフィール……………11
戦術戦略編・メニュー………………13

実戦対局編

対局を始める前に…………………15
対局条件設定………………………16
新規／パス／待った／ヒント………17
ファイル……………………………18
対局者変更…………………………20
地合分析……………………………21
棋譜鑑賞……………………………22
盤面編集……………………………23
各種設定／投了／戻る……………24

名局鑑賞編

名局選択……………………………26
鑑賞方法……………………………27
さまざまな機能……………………29

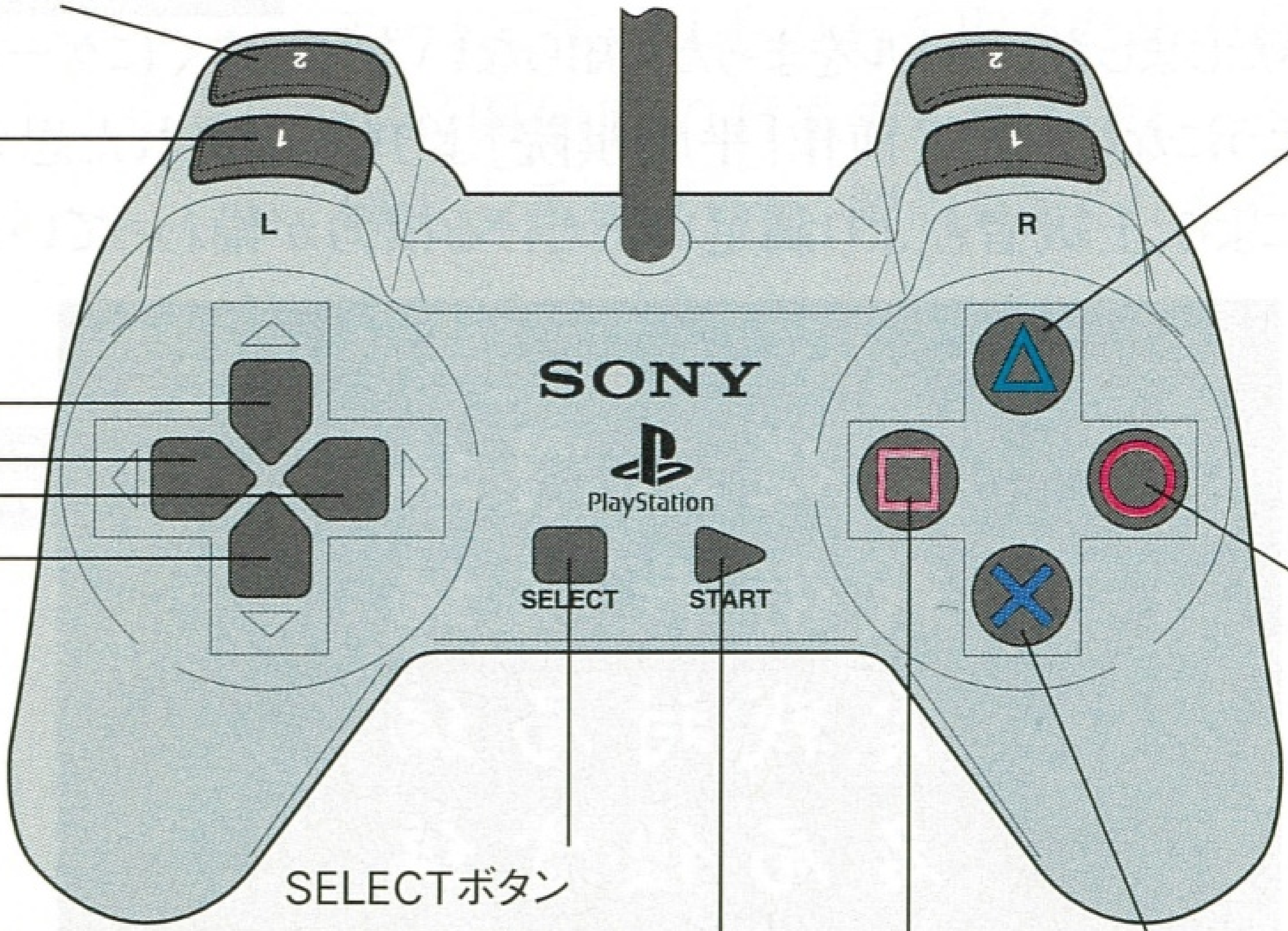
ご注意………………………………31

●操作方法●

お菓子を食べながらでも、囲碁の本を見ながらでも、「平成棋院Ⅱ」で使うコントローラのボタンは、左手だけでも操作ができるように配置されています。気軽に楽しみましょう。

L2ボタン
×ボタンと同じです。

L1ボタン
○ボタンと同じです。



方向キー
カーソルを移動させるキーです。各メニューの画面で項目を選択したり、盤上で石を置く位置を選んだりする時に、この4方向のキーでカーソルを移動させます。

SELECTボタン
△ボタンと同じです。

STARTボタン
オープニング映像を見た後、最初に押すボタンです。さぁ「平成棋院Ⅱ」の始まりです。

△ボタン
各モードの中で、機能項目の一覧が出ます。自分が何をしたいかわからない時にも押してみましょう。

○ボタン
方向キーで選んだ事や、画面に出たメッセージを決定するボタンです。メッセージを消去するときにも使います。

×ボタン
今している事の一つ前の画面に戻ります。対局中は素早く「待った」できるボタンです。メッセージの一時消去にも使います

□ボタン
名局鑑賞編でコメントを表示するときに使用します。

●ゲームを始める前に●

囲碁は今から約三千年前に中国で生まれ、今では50ヶ国以上で楽しまれている非常に奥の深いゲームです。また、子供・大人、男性・女性、強い人・弱い人、どんな組み合わせでも二人で対局を楽しむことができます。「平成棋院II」では通常の対局はもちろん、さまざまな楽しみ方や、上達のための味方となるように4つのモードを用意いたしました。ルールをまったく知らない方でもすぐにゲームができるようになりますし、前作「平成棋院」よりも強化された思考エンジンにより、上級者も、より満足いただける棋力が備わっています。

オープニングの後に、PRESS START BUTTONのメッセージが点滅したらSTARTボタンを押してください。5つのモードの選択画面が表示されます。選択した項目の文字が黄色くなりますので、方向キーの上下でお好みの項目を選択して○ボタンで決定してください。

基礎入門編

囲碁の基礎を学ぶモードです。囲碁は易しくて楽しいゲームですが、いくつかのルールを覚えましょう。初心者が損しないための簡単なコツも覚えたいですね。碁盤とナレーションに合わせたテキストで、わかりやすく解説します。

戦術戦略編

囲碁のルールを覚えた人が、手筋や、布石を学ぶためのモードです。相手の石を取るための様々なテクニックや、対局開始時の打ち方を学びましょう。人気女流棋士の梅沢由香里プロが、解説してくれます。

実戦対局編

実際に対局を楽しむモードです。一人でCPUを相手に、また、友達と二人で対局できるほか、CPU同士の対局を眺めながら勉強することもできます。また、碁盤の大きさや置き石(ハンデ)の数、CPUの強さなどを好きなように設定できます。

名局鑑賞編

過去の名局を鑑賞することができます。要所要所の手で、その手に対する解説をコメント機能で見ることができるので、名局を鑑賞しながら棋力向上に役立てましょう。

クレジット

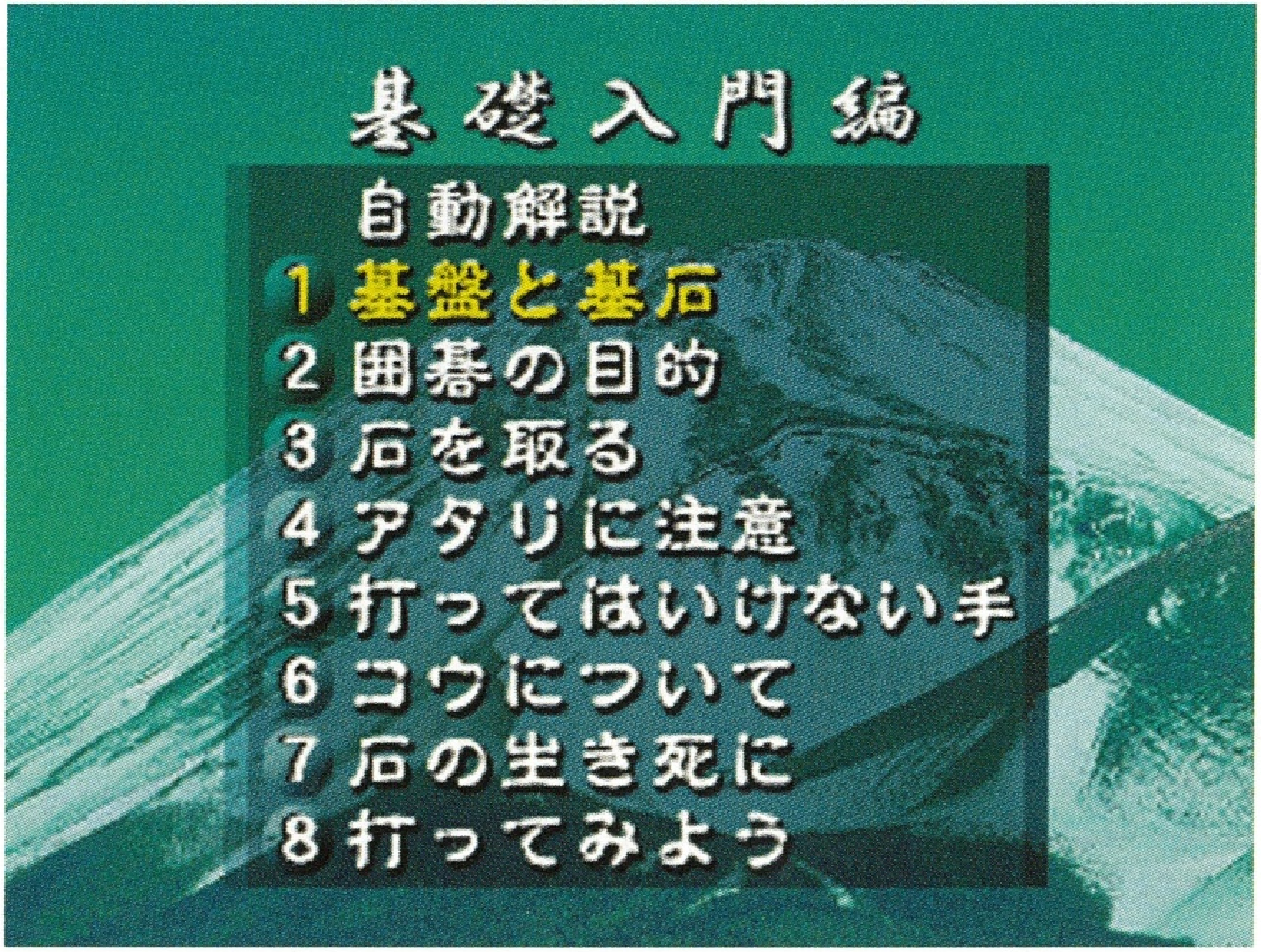
「平成棋院Ⅱ」の思考ルーチンを作ったケン陳博士、解説者である梅沢由香里プロ、制作スタッフを紹介しています。

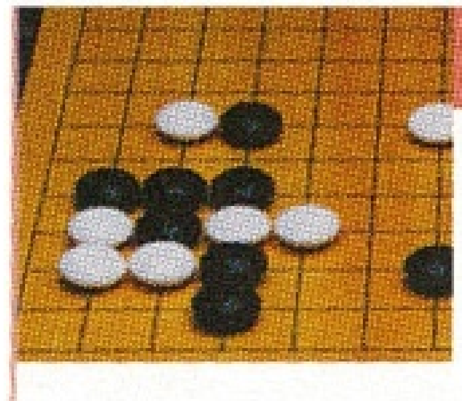
基礎入門編

モード選択画面で基礎入門編を選び、○ボタンで決定して下さい。
囲碁の基本ルールと基礎が楽しく学べる、基礎入門編が始まります。

基礎入門編・メニュー

基礎入門編のメニューは図のようになっています。方向キーで項目を選択して、○ボタンで決定すると解説が始まります。画面右上には選択した項目の見出し、画面左には解説用の碁盤、画面下部には解説のテキストが表示されます。なお、解説中に×ボタンを押すとメニュー画面に戻ります。





●各メニューの内容は以下の通りです。

［自動解説］ 全メニューを順に自動的に表示します。

［碁盤と碁石］ 先手が黒石、後手が白石を持ち、碁盤の線の交点に交互に一手ずつ打っていくゲームです。

［囲碁の目的］ 陣地の大きさで勝敗が決まります。確保した一つ一つの交点の集まりを「地」と呼びます。

［石を取る］ 相手の石を取ることができます。

［アタリに注意！］ 石を取る（取られる）直前の形をアタリといいます。取られないように逃げる形を覚えましょう。

［打ってはいけない手］ 自分の石を、自分から相手の石に囲まれた形にしてはいけません。

［コウについて］ お互いに1個の石が取れる（取られる）形になっている時、取り合いを繰り返すと勝負がつかないので、取られた側はすぐに取り返してはいけないという決まりです。

［石の生き死に］ 石のグループが取られる形は「死に」、取られない形は「生き」といいます。石の「生き」と「死に」の相違点を学びます。

［打ってみよう］ 実戦譜をみて、実際の対局のながれをつかみましょう。

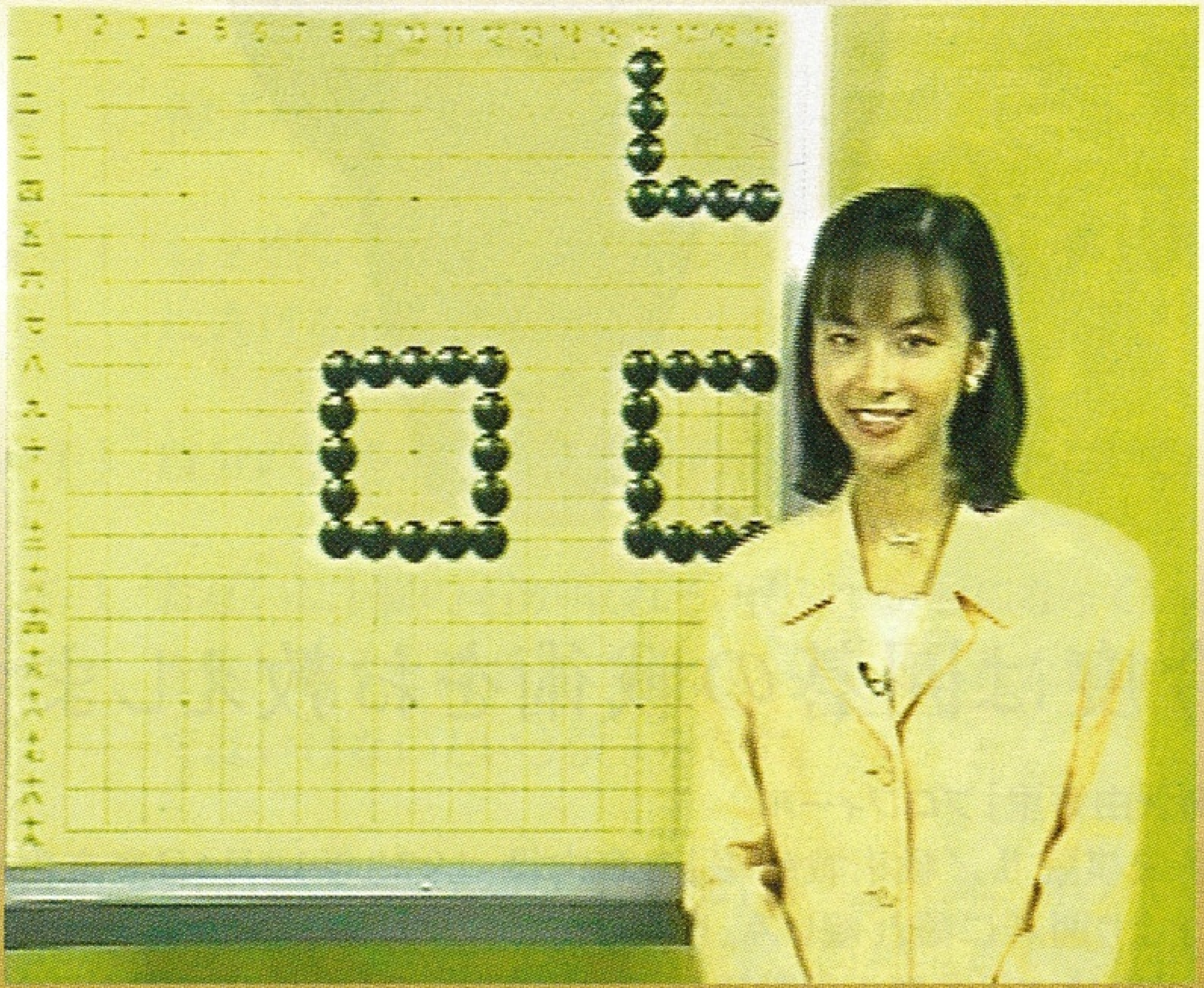
今度は囲碁の戦術をお教えします。

[梅沢由香里]プロフィール

「平成棋院Ⅱ／戦術戦略編」の案内役。1973年10月4日東京生まれ。6才より囲碁に慣れ親しみ、慶応大学時代は囲碁部主将。アマ時代の棋戦歴は、'93多摩十傑戦優勝、'94多摩本因坊戦優勝、'95全日本女流アマ選手権第3位等。1996年環境情報学部卒業後、プロ入段。テレビの囲碁番組等でも活躍中。日本棋院東京本院所属、加藤正夫九段門下。

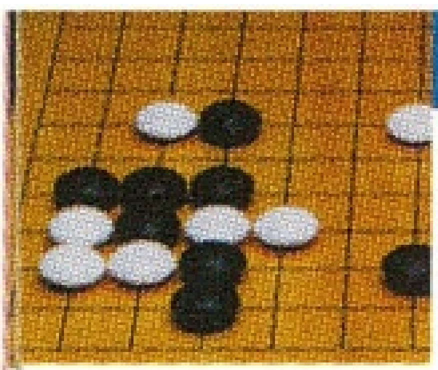
戦術戦略編

モード選択画面で戦術戦略編を選び、○ボタンで決定して下さい。梅沢由香里プロの解説による、囲碁の戦術と戦略が楽しく学べる、戦術戦略編が始まります。



戦術戦略編・メニュー

戦術戦略編は7つの章で構成しました。方向キーで項目を選択して、○ボタンで決定すると解説が始まります。なお、解説中に×ボタンを押すとメニュー画面に戻ります。



●各メニューで梅沢プロが解説する内容は以下の通りです。

［自動解説］ 全メニューを順に自動的に表示していきます。なお、◯ボタンで次の章へスキップすることができます。

石を取るテクニック

［両アタリ］ アタリを2カ所同時にかけて、相手の石を取ってしまいます。

［シチョウ］ アタリの連続で敵の石を辺に追いつめて、取り上げます。

［ゲタ］ アタリをかけなくても、敵の石を包囲して、逃げ道をふさいで石を取ります。

［ウッテガエシ］ わずかな石を犠牲にして、より多くの石を取り返します。

［オイオトシ］ 味方とつながって、逃げられたように見える石を、全部まとめて取ってしまいます。

布石の知識

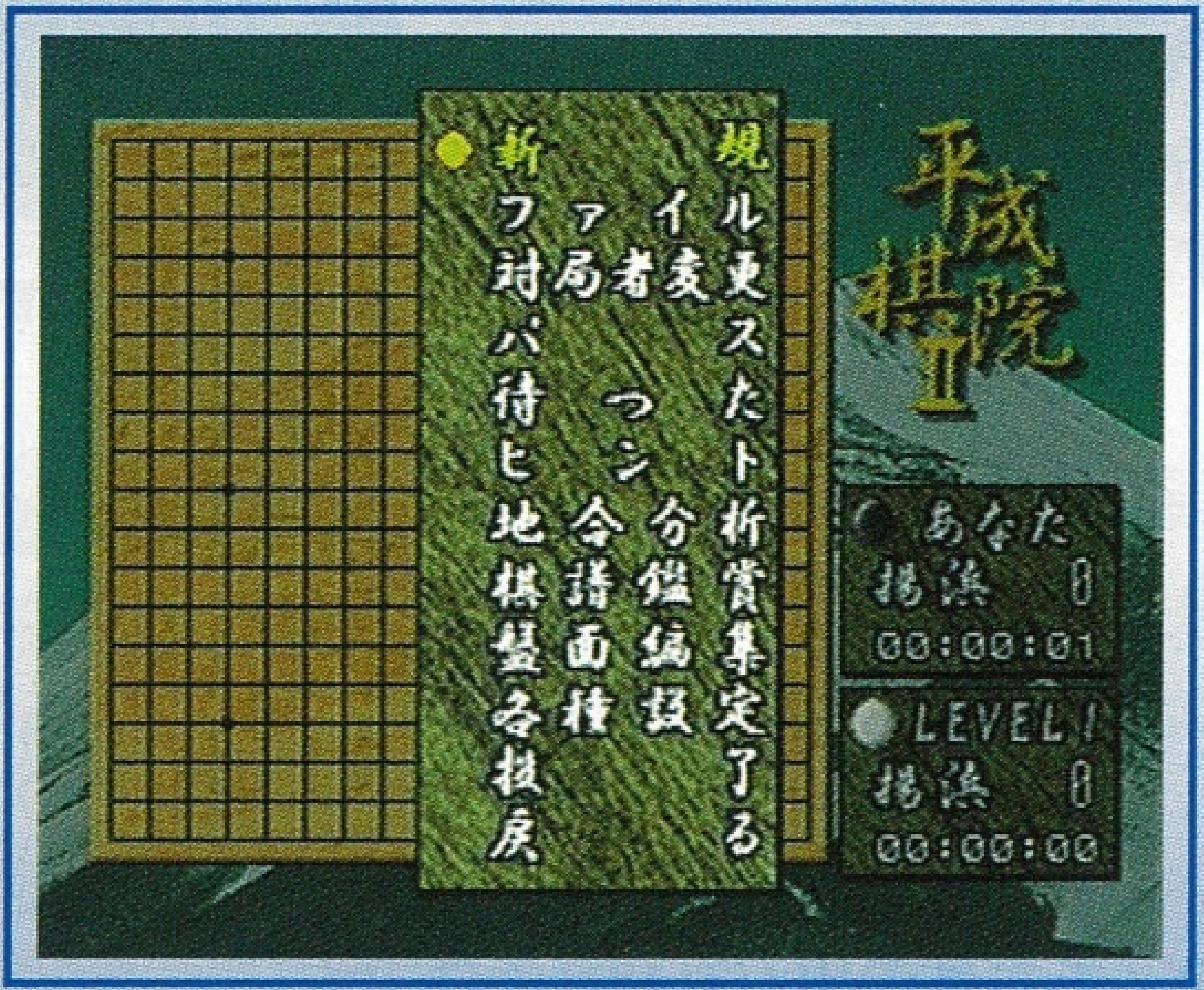
［隅と辺、中央の違い］ 少ない石で、できるだけ多くの地を作るための方法を、19路盤の特徴と合わせて解説します。

［序盤の打ち方］ 19路盤における序盤の打ち方を、易しく教えてくれます。

実戦対局編

[対局を始める前に]

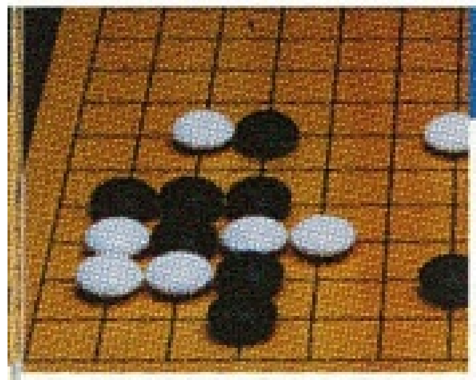
モード選択画面で実戦対局編を選択して、○ボタンで決定すると、対局条件設定画面になります。ここで囲碁を楽しむためのさまざまな条件を設定したら、対局が始まります。また、対局中に△ボタンを押すと機能一覧が表示され、いろいろな機能を使うことができます。



<なお、対局は以下の条件で終了します>

●あなたが「新規」または「投了」の機能を選択したとき。
●両者が連続してパスした場合。
●両者の合計手数が420手を越えたとき。
●CPUが「対局条件設定」で設定された目数以上の差をつけられた場合。

(注) 特殊なケースとして、三コウ以上・循環コウ・長生で同型が反復すると「コウです。すぐには取り返せません」とメッセージが出ますが、この場合は無勝負です。実際の対局では打ち直しとなります。とても珍しいことですから、出現したらぜひ「ファイル」機能を使って保存しておきましょう。平成10年名人戦第四局で、タイトル戦史上初めて三コウ無勝負となって、話題になりました。



対局条件設定

実戦対局編を選択すると最初に出る画面です。方向キー上下で順に項目を選択して、左右で条件を設定して下さい（選んだ項目が黄色く反転し、設定した条件がオレンジ色になります）。お好みの条件を設定したら、「設定終了」を選び、○ボタンを押すと対局開始となります。

［●黒／○白］ COMはCPU、Pはプレイヤー（人間）です。人間同士で対局する時に、コントローラが一台しかない場合は、黒も白も1Pにして、交代で使用します。黒白ともにCOMに設定すると、CPU同士で対局します。

［LEVEL］ CPUの強さを変更できます。1～4までで、順に強くなります。

［盤の大きさ］ 3種類から選択できます。正式な対局では19路盤が使用されます。

［手合割］ ・互先(コミ5目半)／囲碁は先手番の黒が有利なゲームですから、お互いに黒番をもった2局セットの勝負なら公平。そこから出た言葉が互先です。黒の有利分は通常5目半とされ、黒は最初から5目半のコミ(ハンデ)を背負って打ち始めます。終局時に、黒は白より6目以上の地がなければ負けとなります。

・定先（コミなし）／先手番の黒が有利な条件です。

・2子～9子／棋力に差がある場合、黒(弱いほう)が最初から盤上に石を置いて打ち始めます。実力差によって、2子から9子まで選択できます。

［目差］ CPUの投了条件を設定できます。9路盤で10～100目、13路盤で10～200目、19路盤で10～300目まで設定できます。CPUが投了すると「負けを認めます」のメッセージが出て対局終了となります。

［設定終了］ 対局画面に移り、対局を開始します。

［戻る］ モード選択画面に戻ります。

新規

同じ対局条件で新たな対局をする機能です。その時点の対局のデータを保存するかどうか、聞いてきますので、「はい」か「いいえ」を選択して下さい。その後、新たな対局がはじまります。

パス

自分の手番を一回抜かし、相手に打たせる機能です。通常は終盤になって、石を打つ必要が無くなったときに使用します。双方が連続してパスをすると、CPUが自動的に地合計算をして、勝敗の結果を表示します。

待った

直前の2手分を戻します。「失敗した!」と思った時に打ち直すことができるわけです。待った機能を繰り返せば何手でも戻せます。なお、対局中の×ボタンも待ったの機能です。

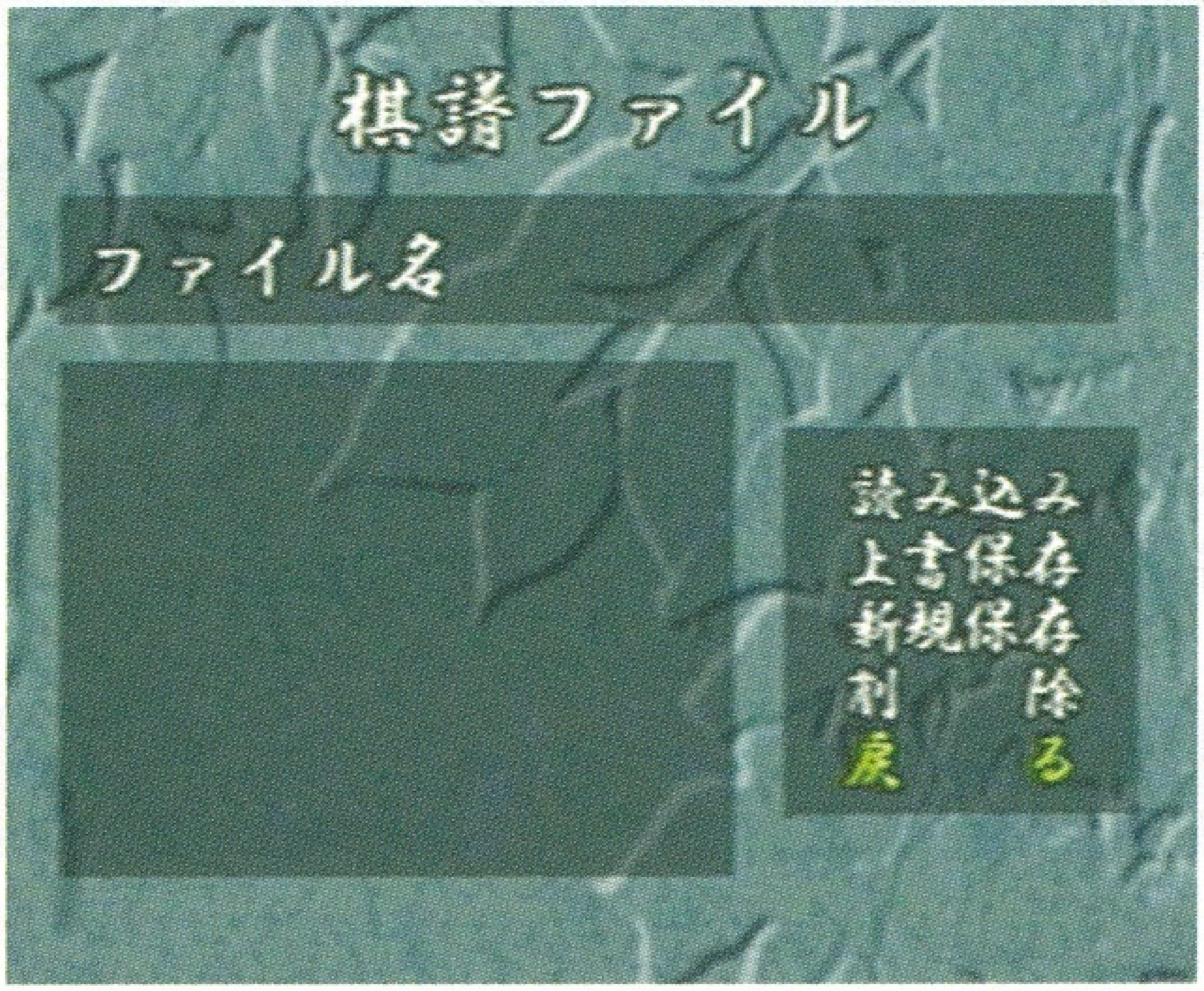
ヒント

どこに打てばよいか、難しい局面の時、最善の着手を教えてくれます。その地点にカーソルが移動し、碁石が点滅します。そのまま○ボタンを押すと、そこに石が打たれ、×ボタンを押すと、キャンセルします。

ファイル

棋譜(碁の手順記録)に名前を付けて保存しておく機能です。対局画面で、△ボタンで機能一覧を表示し、「ファイル」を選んで実行すると、まず「データを読み込んでいます。メモリーカードを抜かないでください。」とメッセージが出ます。データが読まれるとメッセージが消え、図の画面になります。「メモリーカードがありません」と表示された場合は、メモリーカードを用意して、メモリーカード差込口1に入れてください。メッセージはいずれかのボタンを押すと消えます。

※棋譜保存用のメモリーカードは別売です。



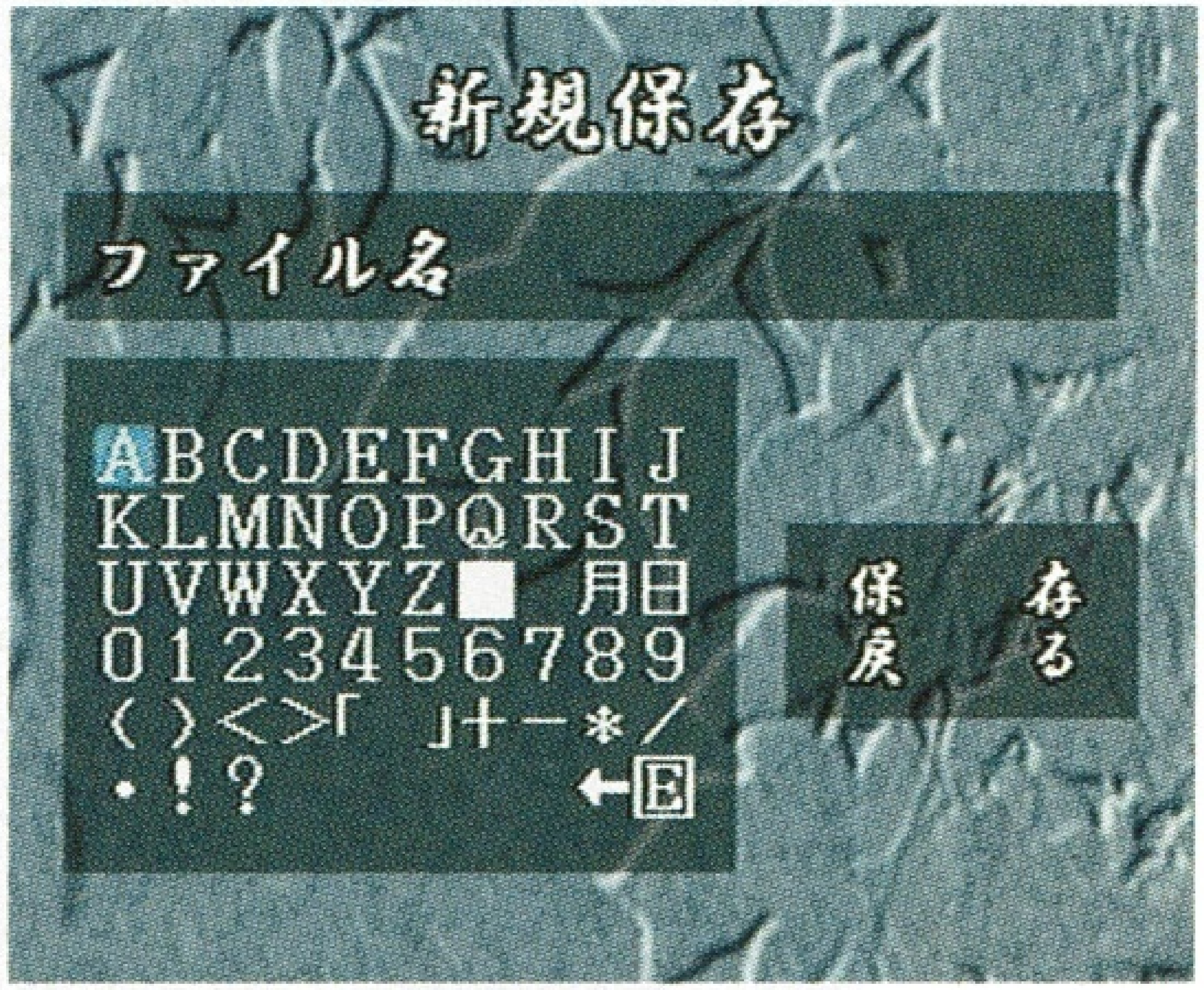
画面右側のコマンド一覧が、ここで選択できる機能のメニューです(詳細は次ページ参照)。方向キーの上下で希望の機能を選び、○ボタンで決定してください。

●ファイル機能の各コマンド説明

［読み込み］ すでに保存してある棋譜を盤上に呼び出します。

［上書保存］ 同じ名前で、古い棋譜を消し新しい棋譜を保存します。

［新規保存］ 棋譜に名前を付けて保存します。新規保存を選ぶと文字一覧表が出ます。方向キーで文字を1字づつ選び、○ボタンで決定。文字表の右下の←印を選ぶと、一字戻ります。名前をつけ終わったらENDを選んで、右側の「保存」で保存。「戻る」で棋譜ファイル画面に戻ります。



［ 削 除 ］ 保存してある棋譜を消します。

［ 戻 る ］ 対局画面に戻ります。

※「読み込み」「上書保存」「削除」は、ミスを防ぐために確認メッセージが出ます。「はい」または「いいえ」を選択してください。大切な棋譜は消さないように気をつけましょう。
※作業途中で別の機能に変更したい場合は、×ボタンで機能一覧表示に戻ります。
※保存できる棋譜は、24局までです。それ以上は「新規保存」できませんので、その際は、いらなくなった棋譜を削除してから保存して下さい。

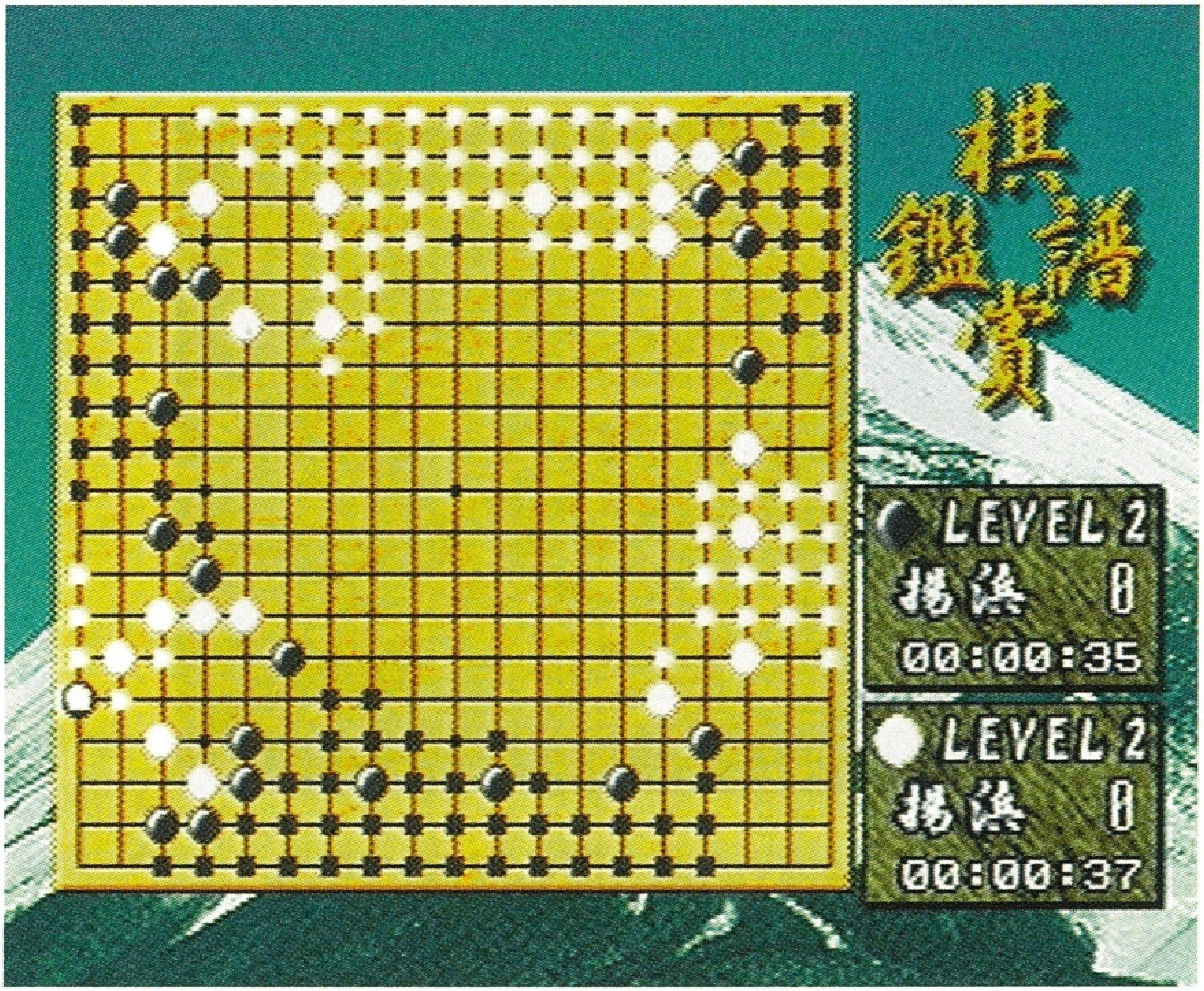
対局者変更

△ボタンで機能一覧を表示し、「対局者変更」を選んで決定すると、対局者を黒番・白番、交代することができます。例えば、あなたがCPUに負けそうになったら立場を逆転させてしまうとか、逆にわざと不利な立場になって逆転勝利を目指すことも可能です。また、CPUの投了条件を自由に変更することもできます。

[設定終了]で、設定した条件で対局を再開します。
[　戻　る　]で、変更を中止し、元の対局画面に戻ります。

地合分析

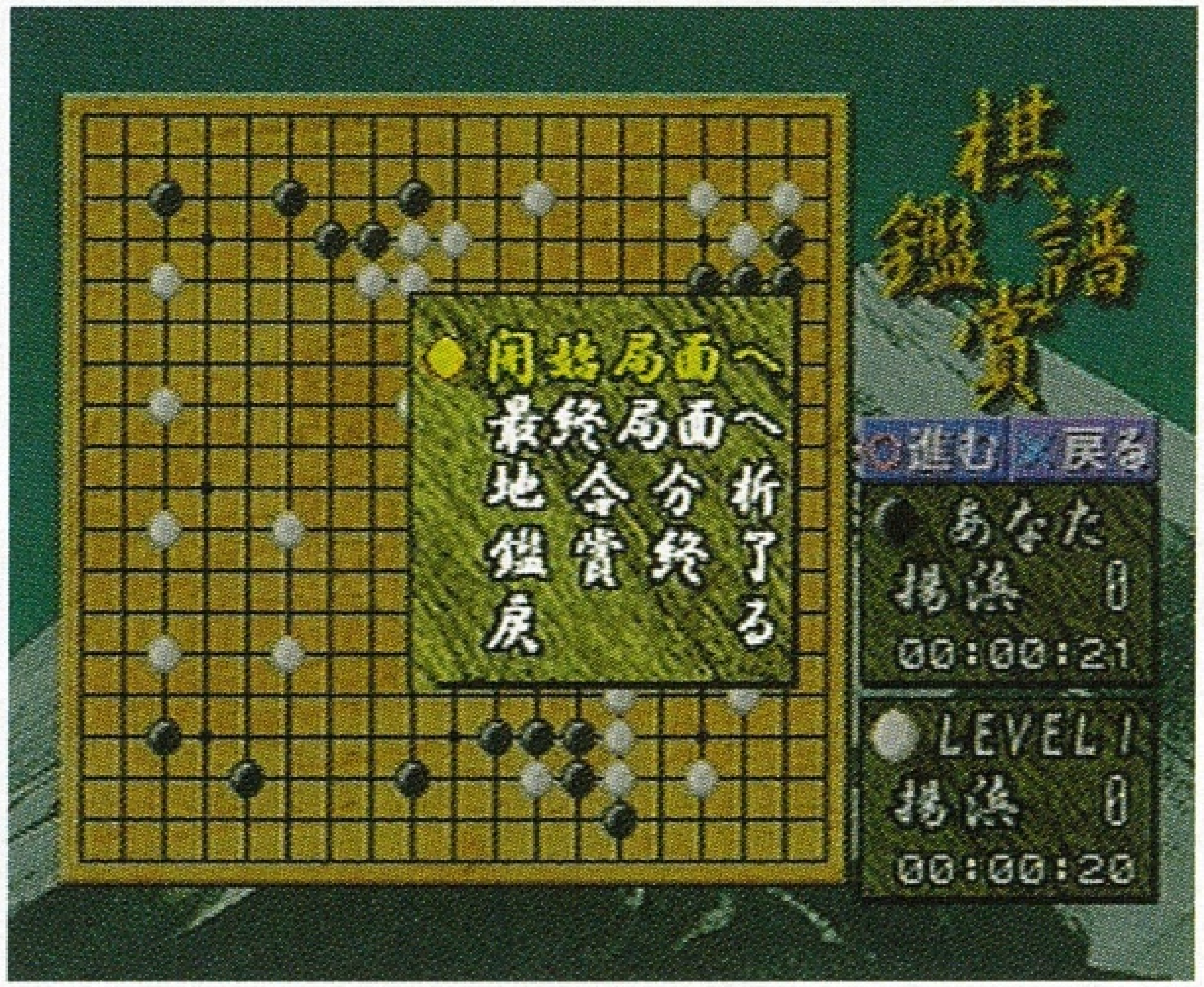
対局中いつでもCPUが地合分析をします。「地合分析」を選択すると、まず、現在の双方の目数が表示されます。さらに×ボタンを押すと盤上に黒は■、白は□で地合が表示され、○ボタンで対局に戻ります。おおよその形勢判断に役立てるとよいでしょう。



なお、対局終了時の、対局結果と双方の目数が表示されているときにも、×ボタンで地合を確認することができます。

棋譜鑑賞

対局進行中の一局を、どの局面にも戻して鑑賞できる機能です。棋譜鑑賞画面で△ボタンを押すと棋譜鑑賞のための機能一覧が表示されるので、希望の機能を選び○ボタンで決定してください。基本操作として、○ボタンで中断時の局面に向かって一手進み、×ボタンで対局の開始局面に向かって一手戻ります。



[開始局面へ]盤上の石が消え、開始局面に戻ります。

[最終局面へ]対局を中断した時点の局面になります。

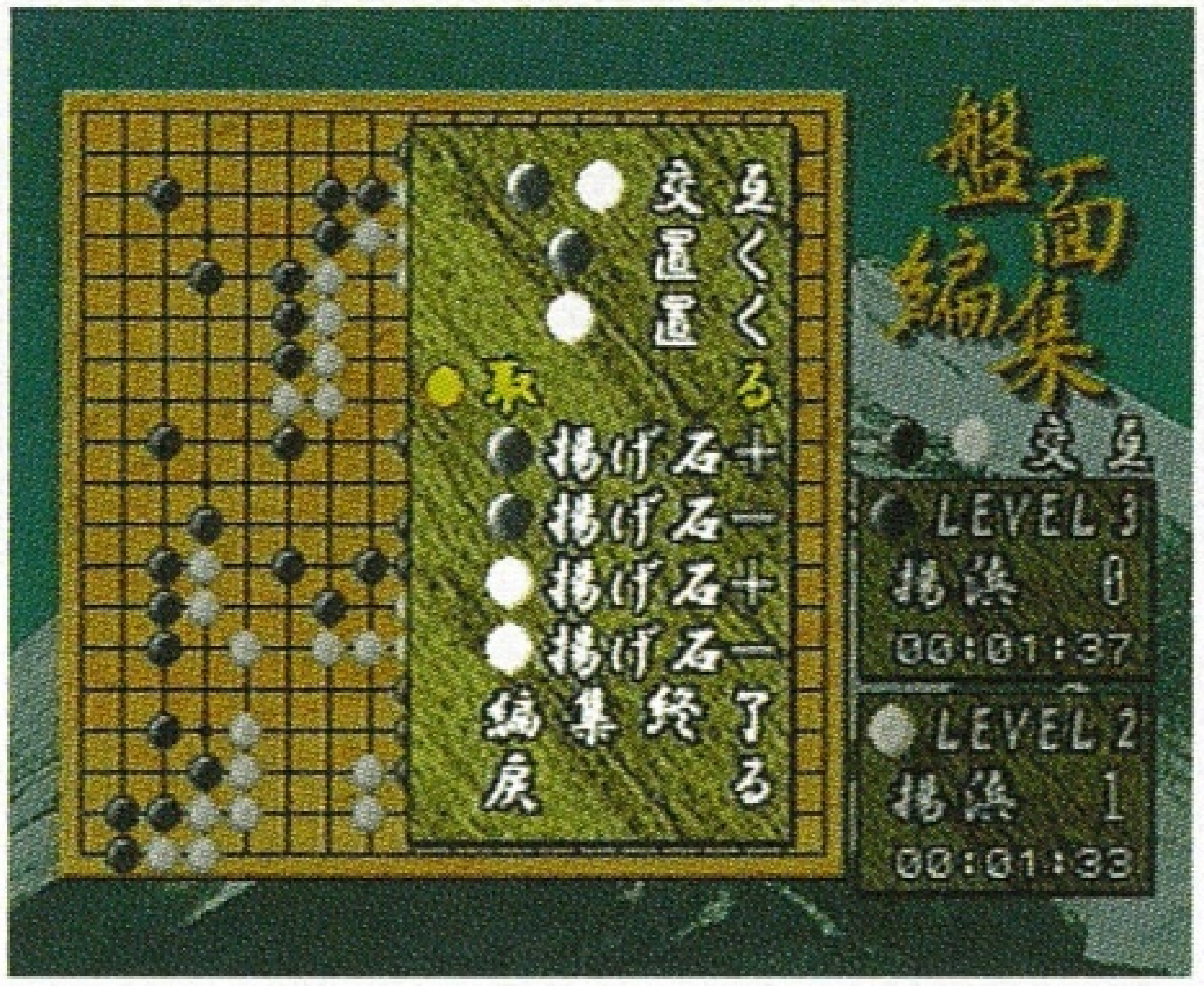
[地 合 分 析]どの局面でも地合分析をします。

[鑑 賞 終 了]棋譜鑑賞画面の現局面のまま、対局画面に戻ります。

[　戻　る　]棋譜鑑賞画面に戻ります。

盤面編集

対局中の局面を一枚の作成中の絵のように扱い、石を増やしたり減らしたり、揚浜の数を変えたりして自由に編集できる機能です。盤面編集画面で△ボタンを押すと、編集用の機能一覧が表示されます。はじめは「●○交互」に設定（画面右側にその文字が表示）されています。機能を選択後、○ボタンを押す度に、ここで設定した機能が実行されます。



［●○交互］指定位置へ次々に黒石･白石が置かれます。

［●置く］／［○置く］黒石または、白石だけを増やします。

［●揚げ石＋］／［○揚げ石＋］黒または白の揚浜の数を増やします。

［●揚げ石－］／［○揚げ石－］黒または白の揚浜の数を減らします。

［編集終了］「黒が先手でよろしいですか？」のメッセージが表示され、「はい」または「いいえ」を選択後、対局画面に戻ります。なお、編集の結果うっかりダメのつまった石を作っていた時は、「ダメのつまった石があります。修正してください。」のメッセージが表示されるので修正してください。

［戻る］盤面編集画面に戻ります。

各種設定

対局中に、いろいろ楽しい条件を変更できます。設定内容は画面右側にサンプルデータが表示されます。

［　盤　］木目調、石盤調、透明盤などの5種類から選べます。
［背 景］画面の背景も5種類から選べます。
［カーソル］指の形や十記号など5種類から選べます。
●その他、BGM・音響・効果音・声なども設定できます（OFFで音は消えます）。
●［設定終了］で設定した条件に変更し、［戻る］で設定内容を変えずに対局画面に戻ります。

投了

最後まで打たずに負けを宣言する機能です。本当に投了するかを確認しますので、「はい」を選択すると、対局条件設定画面に戻ります。

戻る

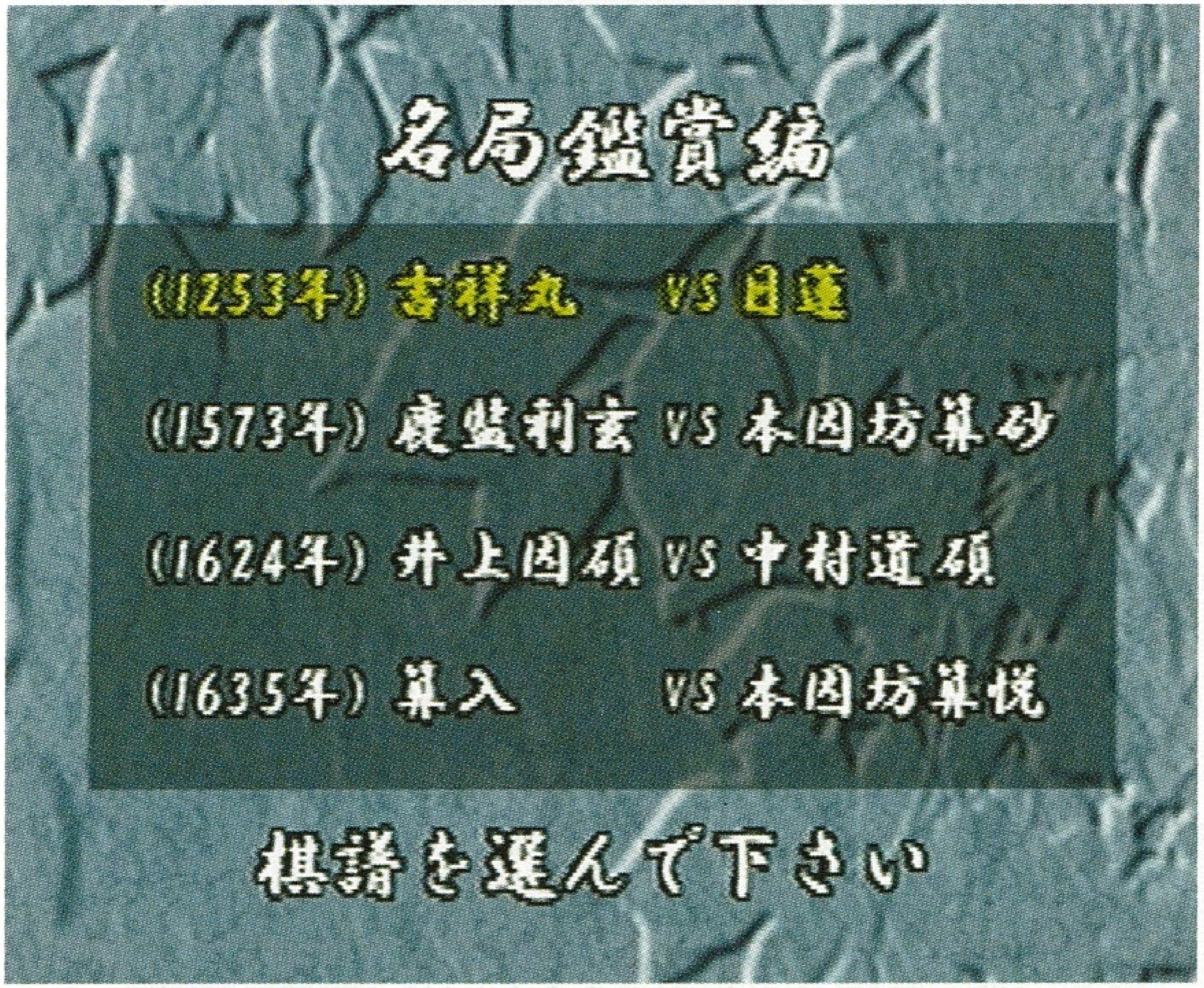
機能一覧を消して、対局を再開します。

名局鑑賞編

モード選択画面で名局鑑賞編を選択すると、過去に行われた名局を鑑賞することができます。著名な実力者の棋譜を15局用意しましたので、当時の対局者の思いにふけりながら、じっくりと堪能してみてはいかがでしょうか。

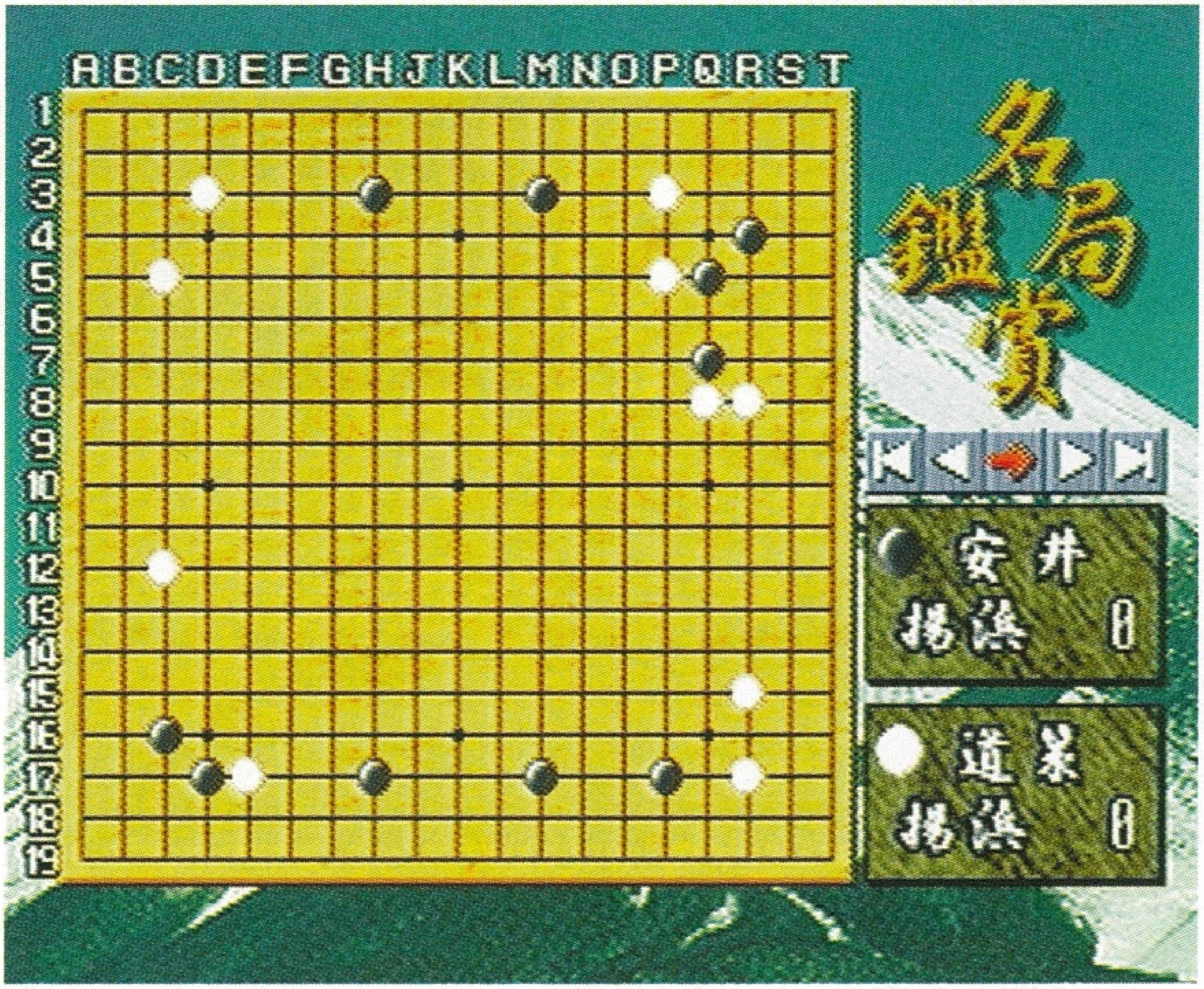
名局選択

モード選択画面で「名局鑑賞編」を選ぶと名局選択画面になります。年代と対局者が表示されますので、方向キーで名局を指定して○ボタンで鑑賞する棋譜を決定してください。



鑑賞方法

名局を選択すると対局画面が表示され、最初にその対局に関するコメントが表示されます（コメントは○ボタンで消えます）。その後は、画面右側に表示されている機能ボタンで、棋譜を鑑賞してください。



記号が描かれている5つの機能ボタンで局面の進行を行います（内容は次ページ参照）。方向キーの左右で希望の機能を選び、○ボタンで決定してください。

●名局鑑賞の各コマンドボタンの説明

[⏮] 対局開始局面に向かって、石が高速で消えていきます。×ボタンで、途中で止めることもできます。

[◀] 一手戻ります。

[➡／■] オートプレイです。自動的に一手ずつ先へ進みます。一度、押すと■ボタンに変わり、もう一度押すとオートプレイを停止します。

[▶] 一手進みます。

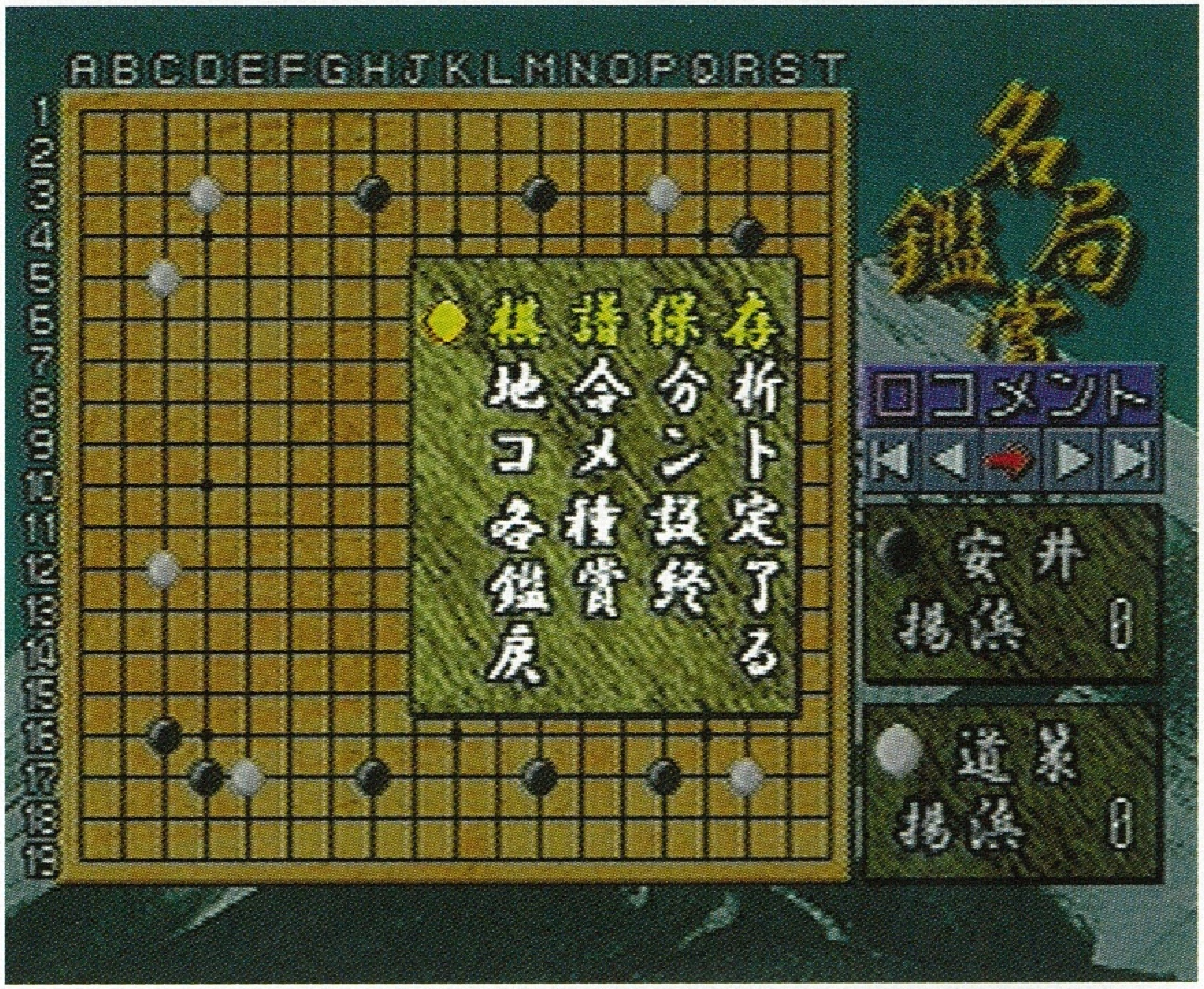
[⏭] 最終局面に向かって、高速で石が打たれていきます。×ボタンで、途中で止めることもできます。

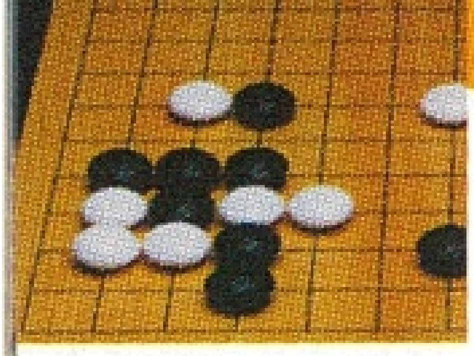
【□コメント】 このウィンドウが機能ボタンの上に表示されている時に、□ボタンを押すと、対局者の紹介や、その局面で打たれた手に対する解説のメッセージが表示されます。(メッセージは○ボタンを押すと消え、×ボタンを押した場合は一時消去となります。)

※なお、オートプレイのスピードと、コメントの表示の仕方は各種設定(次ページ参照)で変更することが可能です。

さまざまな機能

鑑賞中に△ボタンを押すと名局鑑賞での機能一覧が表示されます。希望の機能を選択して、○ボタンで決定して下さい。





●機能一覧の各コマンド説明

［棋譜保存］　実戦対局編の「ファイル」機能と同じように、その時点までの棋譜を保存することができます。ただし、他の棋譜を読み込むことはできません。

［地合分析］　実戦対局編の「地合分析」と同様です。

［コメント］　コメントを見ることができます。コメントがない局面の場合は選択できません。

［各種設定］　実戦対局編と同様に盤や背景などを設定できます。さらに、オートプレイの際のスピードを5段階で調節したり、コメントの表示方法を以下の中から選択できます。

・自動　コメントの存在する局面になると、自動的にコメントが表示されます。

・任意　コメントの存在する局面になっても、□ボタンまたは「コメント」機能を使用しないと、コメントは表示されません。（オートプレイ時には、一定時間経過後、次の手に進みます）

・無し　コメントは一切表示されません。

［鑑賞終了］　鑑賞を終了して、名局選択画面に戻ります。

［ 戻　る ］　名局鑑賞画面に戻ります。

STAFF

思考ルーチン:ケン陳(Dr.Ken Chen)

プログラム:中村栄一/木浪啓之

グラフィック:今正史/劉向東

サウンド:田子美佐子

入門編・解説書監修:村井穂

戦術戦略編シナリオ:甘竹潤二

戦術戦略編解説:梅沢由香里

ムービー処理:村上丈一郎

名局データ提供:株式会社ABS

企画/監督:吉成隆杜

[ご注意]

●製品の製造には万全を期しておりますが、万一、正常に作動しないなどの場合がありましたら、裏表紙に記載の販売元「平成棋院ユーザサポート係」までご連絡ください。製品が不良の場合に限り、新しい製品と交換させていただきます。お客様の事故等で破損された場合には、交換・返品には応じられませんのでご了承ください。

●本製品および本書は著作権法で保護されております。一部または全部を無断で使用・複製することはできません。

●本製品および本書を使用した際のいかなる事態にも、弊社では責任を負いかねますのでご了承ください。

DAIKI

販売元 株式会社ダイキ
東京都品川区東五反田2-2-14 第二岩崎ビル3F TEL.03-3473-5030
開発元 株式会社サクセス

SLPS 01767

©1998 Ken Chen／SUCCESS ©1998 DAIKI